

式 辞

暖かな春の日差しの中、例年に比べて早くも新緑の季節を迎えました。ここに保護者の皆様をお迎えし、第四十回稲浜中学校入学式を晴れやかに挙行できますことを、心より感謝申し上げます。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。今、担任の先生から一人一人氏名を呼ばれ、元気に返事をされた百十一名の皆さん、いよいよ今日から稲浜中学校第一学年の生徒です。中学校に足を踏み入れた今の気持ちはどうでしょうか。制服に身を包み、凜とした姿勢ときらきら輝く瞳は希望に満ちて素敵です。

新入生の皆さんは昨年一年間、新型コロナウイルス感染拡大防止のために厳しく、辛い日々を小学校で過ごして来たと思います。けれども、学校生活の本当の有難さと友達の大切さを実感したのではないかと思います。そして、コロナ禍の中でも、工夫することで実現できることを見つけ出し、振り返ると楽しかった思い出も多く残せたのではないのでしょうか。小学校で身に着けたその逞しさがあれば十分です。これまでに培ったものの上に中学校生活が、積み重なっていくのです。中学校でも「学校の新しい生活様式」を考えながら、新型コロナウイルス感染がなかった時代に劣らない充実した中学校生活を行う準備をしています。更に今年度は、部活動に新たに文化系の「美術部」を創部しました。

しかし、充実した中学校生活をより良いものにするためには、皆さん自身が中学校生活でやりたいこと、挑戦したいことをしっかりと決めなくてはなりません。決めたことが全て、叶う分けではありません。上手くいかないことや失敗をして、悩むこともあるでしょう。でも、自分が成長していく過程で成功体験だけではなく、苦勞をし、失敗経験をすることも重要なことなのです。困難を乗り越えたくましく成長していく力も身に付けてください。稲浜中学校の先生方は、「自主 誠実 練磨」の三つの校訓のもと「豊かな心を持ち、自ら正しく判断し、行動できる生

徒の育成」という学校教育目標を具現化するために、日々、生徒のみなさんに接しています。できる限り生徒たちに考させ、生徒が自分で判断して決めていくことを先生方にも求めています。この事は、ただ単に皆さんに自由をもたらしているわけではありません。中学生として、自分でしっかりと正しく判断し、実行する力を身に着けて発揮する事が重要です。

しかし、頑張っていると、つらい思いをすることや、友達とけんかをする事が必ずあります。その時は誰かに相談することが大切です。私達には必ず自分のことを心配し、支え、励まし、良い解決策を教えてくれる人がいます。私たち稲浜中の教職員一同も新入生のみなさんを支えていきます。安心してください。

今年には稲浜中学校創立四十周年に当たります。一昨年度はトイレ改修、昨年度は校舎の外壁工事とエアコン設置工事がありました。今年度は、特別棟のエアコン、エレベーターの設置工事が予定されています。新しくなった校舎の水色は、稲浜中学校の校章の由来にある「波が東京湾から太平洋に押し出す海のように、豊かに、大きく、深い人間に育て」との願いを込めて選びました。皆さんで伝統を大切にしながらも新しく、時代に応じた稲浜中学校を作り上げましょう。

最後に一つだけ新入生の皆さんに覚えてほしい言葉があります。それは「多様性」という言葉です。紆余曲折の末開催される東京オリンピック・パラリンピック2020は、開幕まであと107日となりました。そのシンボルマークはすでに見たことがあると思います。そのシンボルマークのデザイナーである3つの異なる四角形は、多様性を表しています。その制作者の野老朝雄さんはこう言っています。

「みんなちがうから、おもしろい。

みんなちがうけれど、つながれる。

互いに認め合い、支え合いながら、ひとつになる時がやって来ます。

同じ形、同じ数の四角形でつくられるふたつのエンブレム。

それは、すべてが平等である証です。」

人は個性があり、違う考え方や価値観を持っています。これから成長を続ける皆さんに、ぜひ「多様性」という言葉を忘れずに生きてほしいと思います。

改めまして、保護者の皆様、お子様のご入学、誠におめでとうございます。中学校の三年間は心身ともに一段と成長していく時期です。それだけに悩みが多い時期でもあります。時には遠くから温かく見守り、時には真摯にお子様と向かい合っただきたいと思います。「子どもは、家庭で愛され、学校で学び、地域で育つ」と言われています。お子様が大切な中学時代を素直にのびのびとすごせるよう職員一同、心を一つにして、努力いたしますので、ぜひ皆様の学校への深いご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和三年四月七日

千葉県立稲浜中学校長
川崎 康範